

# えが 戦争を描いた絵本



争いはなぜおこるのか、戦争によってうばわれるものは何か、絵本を通して知り、考えてみませんか。子どもから大人までどうぞ。

東村山市立図書館

## おひさまとおつきさまのけんか

せなけいこ/作・絵 ポプラ社



おつきさまの遅刻から始まった小さなけんかは、どんどんエスカレートしてしまい、とうとう空はまっくらになってしまいました。

## へいわとせんそう

たにかわしゆんたろう/ぶん  
Noritake/え ブロンズ新社



へいわなボクとせんそうのボクはどう違う？家族は？町は？シンプルな絵で平和な時と戦争の時の対比を描き、幼児にも理解しやすい内容。

## わたしの「やめて」

### 戦争と平和を見つめる絵本

自由と平和のための京大有志の会  
声明書/文 塚本やすし/絵  
朝日新聞出版



戦争は始めるのは簡単だけど終わらせるのはとても難しい。だからこそ、一人ひとりが「やめて」と声をあげることが大切なのです。

## ヒロシマ消えたかぞく

指田和/著 鈴木六郎/写真 ポプラ社



原爆によって一家全滅した家族の写真集。写真好きなお父さんの六郎さんが撮りためた家族6人の幸せな暮らし。原爆はその全てを奪ってしまいました。

## 秋

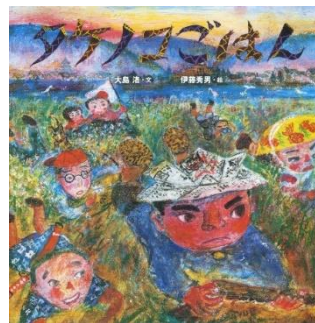
かこさとし/文・絵 講談社



『からのすのパンやさん』の作者かこさんは、戦時中18歳の学生で、盲腸炎で入院していました。そこで体験したある悲しいできごととは…。

## タケノコごはん

大島渚/文 伊藤秀男/絵 ポプラ社



戦争に行く先生の家にみんなで押しかけて、ごはんをごちそうになった。さかいくんは泣きながら食べて、「先生、戦争なんかいくなよっ」と言った。

## きみがおしえてくれた。

今西乃子/文 加納果林/絵  
新日本出版社



ひな子が犬の散歩に行くときいつも会うおばあさん。ある日、おばあさんが子どもの頃に飼っていた秋田犬「富士」の話をしてくれました。戦争は大切な犬の命も奪ったのです。

## エリカ奇跡のいのち

ルース・バンダー・ジー/文  
ロベルト・インノチェンティ/絵  
柳田邦男/訳 講談社



強制収容所に向かう汽車の窓から草むらに放り投げられた赤ちゃん。誕生日も両親もわからない赤ちゃんは村人に拾われ、エリカと名付けられました。

# いのちの大切さを考える本 「戦争を描いた絵本」一覧

## ●戦争ってどんなこと？

	書名	著者名	出版社名	出版年
1	<b>きょうせんそうがはじまると</b> ともだちとあそべない でんきがとまる おとうさんがせんじょうにいく…日常生活が変わってしまうおそろしさを描く。	藤代勇人/作 塚本やすし/絵 よこみぞみゆき/英訳	ニコモ	2023年
2	<b>ぼくがラーメンたべてるとき</b> ラーメンたべているぼくと、戦争で倒れている男の子は、地続きの同じ世界にいることを気づかせてくれる。	長谷川義史/作 絵	教育画劇	2007年
3	<b>へいわってすてきだね</b> へいわってなにか。ぼくは、かんがえたよ。小学1年生の男の子が書いた詩。沖縄全戦没者追悼式で朗読しました。	安里有生/詩 長谷川義史/画	ブロンズ新社	2014年
4	<b>おとうさん</b> ぼくにはとうさんはいない。ぼくがうまれたとき、とうさんはもういなかった。父親不在の理由が最後に明かされる。	シャーロット・ゾロトウ/文 ベン・シェクター/絵 みらいなな/訳	童話屋	2009年
5	<b>かあさんはどこ？</b> 遊んでいた時、突然爆弾が落ちてきた。やっと逃げ帰ったが、家にはだれもいない。ひとりぼっちで逃げまどう少年の姿が胸に迫る。	クロード・K.デュボワ/作 落合恵子/訳	ブロンズ新社	2013年
6	<b>おなじ月をみて</b> 男の子が窓から外をながめて、誰かをまっています。やってきたのはライオン、ゾウ…。最後に現れたのは誰でしょうか。	ジミー・リャオ/作 天野健太郎/訳	ブロンズ新社	2018年
7	<b>せんそう</b> 並んで建っている赤いお城と青いお城。王さまも住人同士も仲がよかったが、ささいなことから戦争が始まってしまう。	エリック・バトゥー/さく 石津ちひろ/やく	好学社	2023年
8	<b>かあちゃんのジャガイモばたけ</b> かあちゃんはジャガイモを作って二人の息子を育ててきましたが、息子たちは大きくなると兵士になって出て行きました。	アニタ・ローベル/さく まつかわまゆみ/やく	評論社	2018年
9	<b>イエローバタフライ</b> ウクライナ人の作者が避難生活を送っている時に描いた字のない絵本。鉄条網やミサイルの中の黄色いチョウの意味は？	アレクサンドル・シャトヒン/著	講談社	2023年
10	<b>ちいさなへいたい</b> ある日戦争がはじまり、兵士となり、仲間を失い、戦争が終わった。国に戻ったぼくは考える。あの戦争はなんだっただろうと。	パウル・ヴェルレプト/作 野坂悦子/訳	朝北社	2009年

## ●日本では…？

1	<b>せんそうってなんだっなの？ 1 生活</b> 何を食べ、どんな暮らしをしていたのか、お話ふたつと説明が入っています。語りつぎお話絵本 第1期全8巻の1巻目。	田代脩/監修 NPO「昭和の記憶」/監修	学習研究社	2007年
2	<b>おとなになれなかった 弟たちに…</b> 満身に食べるものがなかった戦争中、ぼくは甘いものがほしくて、おとうとの粉ミルクを飲んでしまった…。	米倉齊加年/作	偕成社	1983年
3	<b>お手玉いくつ</b> 親と離れて集団疎開した時に母さんが持たせてくれたお手玉には秘密があった。お手玉名人の花代おばさんから聞いたお話。	長崎源之助/作 山中冬児/絵	教育画劇	1996年

	書名	著者名	出版社名	出版年
4	<b>字のないはがき</b>	向田邦子/原作 角田光代/文 西加奈子/絵	小学館	2019年
	ちいさいもうとが疎開することになった時、おとうさんは字の書けないもうとに、たくさんのはがきを渡しました。			
5	<b>またあしたあそぼうね</b>	山下ますみ/文 ささきみお/絵	新日本出版社	2019年
	遊ぶ約束をした友だち。飾っていたおひなさま。6歳のはるよちゃんの大切なものは東京大空襲でみな燃えてしまいました。			
6	<b>焼けあとのちかい</b>	半藤一利/文 塚本やすし/絵	大月書店	2019年
	15歳の少年が体験した東京大空襲。それは「戦争だけは絶対にはじめてはならない」という決意につながりました。			
7	<b>せんそう 昭和20年3月10日東京大空襲のこと</b>	塚本千恵子/文 塚本やすし/絵	東京書籍	2014年
	東京大空襲で炎に追われながら奇跡的に助かった6歳のちえこちゃん。その体験を息子の塚本さんが描いた作品です。			
8	<b>かわいそうなぞう</b>	つちやゆきお/ぶん たけべもといちろう/え	金の星社	1970年
	戦争がはげしくなると、上野の動物園にいた3頭のぞうたちも殺さなくてはなりませんでした。			
9	<b>麦畑になれなかった屋根たち</b>	藤田のぼる/文 永島慎二/絵	てらいんく	2014年
	武蔵野市に中島飛行機という大きな工場があり、戦争で使う飛行機を作っていました。ある日、空から爆弾がふってきて…。			
10	<b>せんそうをはしりぬけた『かば』でんしゃ</b>	間瀬なおかた/作・絵	ひさかたチャイルド	2018年
	特急列車として子どもたちに人気だった電気機関車は、戦争が始まると、戦地に行くへいたいさんを運ぶことになりました。			
11	<b>すみれ島</b>	今西祐行/文 松永禎郎/絵	偕成社	1991年
	子どもたちが特攻隊の若者に届けたすみれの花束が、やがて南の海の小さな無人島一面にすみれの花を咲かせました。			
12	<b>おきなわ 島のこえ</b>	丸木俊/文・絵 丸木位里/文・絵	小峰書店	1984年
	上陸したアメリカ軍から逃れるために逃げ出した島民たちは、日本兵からも追われ、たくさんの人が亡くなってしまいました。			
13	<b>おりづるの旅 さだこの祈りをのせて</b>	うみのしほ/作 狩野富貴子/絵	PHP研究所	2003年
	原爆病で入院したさだこは、おりづるを千羽おると願いがかなうと聞いて、つるを折りつづけたが…。			
14	<b>まっ黒なおべんとう</b>	児玉辰春/文 長沢靖/絵	新日本出版社	1995年
	8月6日の朝、うれしそうにおべんとうを持って出かけた中1のしげるは、原爆が落ちて帰らぬ人となった。			
15	<b>ひろしまのピカ</b>	丸木俊/え・文	小峰書店	1980年
	みいちゃんがおとうさん、おかあさんといっしょに朝ごはんをたべていた時、とつぜんピカっとおそろしい光がつきぬけました。			
16	<b>絵で読む広島原爆</b>	那須正幹/文 西村繁男/絵	福音館書店	1995年
	原爆投下によって広島街の街並みや人々がどうなってしまったのかを、たくさんの資料をもとに克明に描いた力作です。			
17	<b>絵本 はだしのゲン</b>	中沢啓治/著 Elizabeth Baldwin/訳	DINO BOX 垣内出版	2013年
	原子爆弾がテーマの漫画『はだしのゲン』の絵本版。英語・日本語併記で豊富なイラストが付いています。			
18	<b>ふりそでの少女</b>	松添博/作 絵	汐文社	1992年
	長崎の原爆でたくさんの人が亡くなった。校庭で火葬される人たちの中に、美しい晴れ着を着せられたふたりの少女がいた。			
19	<b>赤いボタン</b>	岡本央/写真・文	大月書店	2023年
	長崎の原爆で亡くなった人たちの遺品を集めている芙美さん。遺品を通して今の子どもたちに伝えたいことは…。			
20	<b>紅玉</b>	後藤竜二/文 高田三郎/絵	新日本出版社	2005年
	1945年秋。戦争が終わり、戻ってきた父はりんごの収穫を楽しみにしていたが、りんご畑が何者かにおそわれた。			

## ●世界では・・・?

	書名	著者名	出版社名	出版年
1	<b>戦争をやめた人たち</b>	鈴木まもる/文・絵	あすなろ書房	2022年
	第一次大戦中に実際にあったクリスマス休戦の話。作者がウクライナの人たちの幸せを願って完成させた絵本。			
2	<b>ふたりの約束</b> アウシュビッツの3つの金貨	ブニーナ・ツヴィ/文 マーギー・ウォルフ/文 イザベル・カーディナル/絵 金原瑞人/訳	西村書店	2020年
	第二次世界大戦下、アウシュビッツ強制収容所でユダヤ人の姉妹が助け合って生きのびるお話。			
3	<b>父さんはどうしてヒトラーに投票したの？</b>	ディディエ・デニクス/文 PEF/絵 湯川順夫/訳 戦争ホーキの会/訳	解放出版社	2019年
	第二次世界大戦中、ドイツ人の少年の眼を通してナチスの台頭から敗北までを描く。			
4	<b>この計画はひみつです</b>	ジョナ・ウインター/文 ジャネット・ウインター/絵 さくまゆみこ/訳	鈴木出版	2018年
	戦時中の1943年、アメリカの砂漠に世界中から優秀な科学者が集められ、ある装置を作る計画がすすめられていました。			
5	<b>オットー 戦火をくぐったティペア</b>	トミー・ウンゲラー/さく 鏡哲生/やく	評論社	2004年
	オットーはドイツの工場で作られたティペア。デビットの誕生日のおくりものになったが、デビットは強制収容所に送られてしまい…。			
6	<b>おとうさんのちず</b>	ユリ・シュルヴィッツ/作 さくまゆみこ/訳	あすなろ書房	2009年
	戦争で故郷を追われ、遠い国でひもじい思いをしている息子に、おとうさんはパンではなく、地図を買ってきた。			
7	<b>いえ あるひせんそうがはじまった</b>	カテリナ・ティホゾーラ/さく オレクサンドル・ブローダン/え すぎもとえみ/やく	汐文社	2023年
	ウクライナで家を失った男の子が避難中に自分の家はどこになるのだろうかと思悩む。戦場に行く父がかけた言葉は？			
8	<b>わたしに手紙を書いて</b>	シンシア・グレイディ/文 アミコ・ヒラオ/絵 松川真弓/やく	評論社	2020年
	図書館のブリード先生は、強制収容所に入れられた日系アメリカ人の子どもたちに、本や手紙を送り、はげまし続けた。			
9	<b>この本をかくして</b>	マーガレット・ワイルド/文 フレヤ・ブラックウッド/絵 アーサー・ピナード/訳	岩崎書店	2017年
	図書館が爆撃を受け、本がこなごなになった。お父さんが借りていた赤い本だけが残った。国を追われても守り抜いた1冊の本のお話。			
10	<b>ルブナとこいし</b>	ウェンディ・メデュワ/文 ダニエル・イヌユ/絵 木坂涼/訳	BL出版	2019年
	難民キャンプにやってきた女の子ルブナ。拾った小石に顔を描き、不安な気持ちを話しかけて大切にしていたが…。			
11	<b>ともだちのしるしだよ</b>	カレン・リン・ウィリアムズ/作 カードラ・モハメッド/作 グーグ・チャーカ/絵 小林葵/訳	岩崎書店	2009年
	難民キャンプで友だちになった二人の少女。救援物資の中に見つけた片方ずつのサンダルが二人を結びつける。			
12	<b>アレッポのキャットマン</b>	アイリーン・レイサム/著 カリーム・シャムシ・バシャ/著 清水裕子/絵 安田菜津紀/訳	あかね書房	2021年
	シリア内戦によって、アレッポの街は壊され、たくさんのねこたちが食べ物もなくなさまよっていた。実際に保護センターを作った男のお話。			
13	<b>せかいいちうつくしいぼくの村</b>	小林豊/作・絵	ポプラ社	1995年
	アフガニスタンの村の豊かな自然とおだやかな生活。最後のページで戦争で村が破壊されたことが伝えられる。			
14	<b>ウィニー 「プーさん」になったクマ</b>	サリー・M.ウォーカー/原作 ジョナサン・D.ヴォス/絵 さくまゆみこ/訳	汐文社	2016年
	「くまのプーさん」のモデルとなったくまのお話。戦争中カナダの軍医に連れられ戦地を巡ったのち、ロンドンの動物園で出会ったのは…。			
15	<b>子どもの本で平和をつくる</b>	キャシー・スティンソン/文 マリー・ラフランス/絵 さくまゆみこ/訳	小学館	2021年
	戦後ドイツに戻ったイエラは、図書館もなくなった町で子どもたちに本を読んでもらおうと、いろいろな国から本を集めました。			
16	<b>とうきび</b>	クワン・ジョンセン/詩 キム・ファンヨン/絵 おおたけきよみ/訳	童心社	2016年
	家の土堀のそばにぼくが植えたとうきび。戦争で家を捨てて遠くに逃げたあともずっと、ぼくはとうきびのことを考えている。			
17	<b>ガザ 戦争しか知らないこどもたち</b>	清田明宏/著	ポプラ社	2015年
	ガザに住む人々の多くはパレスチナ難民とその子どもたち。2015年当時のガザの住民たちの肉声や街の様子を記録した写真集です。			